枯尾華 下

911.3
カ
下

遠藤庵書

十月廿五日共枕隣出武江而暨
義仲寺望芭蕉翁之墓歎唱

いつのまに風のうしろも高のぞく
ものてみしかちら春よりはるかなる
笠ゆ眠り小蓑の病つゆの浮世をふるい
あれはるく松柏ゆるあるとはいのかぶ
るをとゝのうつゝなり世真角八
ちる樂あるやゆ生おのゝふるかのる

色とりあつめて遠き境のくさ
いろいろ江都の心を
尽せるかの色とこころくの席を
もとめて追善真りのくさく他の徒よ
ひろひあつめて後学を忘色
つ出まくしたれ色寒くう
うけて寒月七日ゆつるの花千
義仲寺の家上千ひさすくさ立華

翁はかりもちぼすの心境一茶を
ひろくたとえ方象よくけるけ所この
乃よあるくくくくくを利し他を利し
法千真神不唱今あんのくくも
ゆへくく
法華ようく拾ちくん雪佛

嵐雪拜

十月廿二日夜與行　嵐雪

[illegible]

[illegible]一節の長[illegible]

[illegible]の[illegible]二つ五[illegible]百里

[illegible]神叔

[illegible]東潮

[illegible]浮生

[illegible]卜宅

[illegible]舟竹

[illegible]桐雨

[illegible]月下

[illegible]風洗

[illegible]秋下

[illegible]咸宇

[illegible]牧人

[illegible]岩歌

[illegible]張鈎

[illegible]東溟

山吹もさくらの盛りを見れば
春の雪のごとくなる雪
氣おのづからよはいかみの百里
只まことに四十の内の樂所
氷花
月影いとさやかなる嵐雪
うらぶれて物思ふの鞘ぬけ
神叔
結解のおのづから乱れ
嘉隆
京家より書状切れて送るし
百里
雪の近くより流るる
神叔

傘の下にまことに傘いかなる
吹雪
春の野
世の氣色
氷花
あるとは風呂吹煮ユル
嘉隆
先達の書より師走
百里
春をもとうとうユル
古叔
中山道ハかりて
嵐雪
一すをまの價の
百里
さる代もちと治る
老
氷花
世よりいまのあつの墓の
書迹

世常の情のうたむさ度　緑子

満座追善各焼香

なのふ人の郷ちも四季の孫ハ　百里
ゑんおさちの新ハいつ比雪乃比　氷花

悔前非

身をつる迷ハさをたをの　神叔
苦しふ人の涙あを塚の雪　浮生
風のみをしつ山や墓乃月　舟竹

乃ちくれ物の美の根の尾し　咸宇
伊ハ二なるなむ身ハ比る　雪迷
うわ世ハ人をうきおる潮　臥　東風
ハ比ものも比ちをおを世や　哈し　素子

芭蕉

芭蕉ゑみ人ちの新ハ
ちをふ人ちをつて行る
秋ハ比ものへてをハ小ハ比も
衰乃芭蕉のちれ世中　安道

十月廿二日興行

枯くも多く旅にてつゞき　逆旅
色なき乃ふとんをおかひよせて
住やあおいを霜のつとおさめ　桃隣
渋くうゆうみ色廿日の紀　子珊
一面に敷のはな小松ゆやるを　杉風
よごれし一夏を川出落し　岱水
兎角は茶館なく色しらり　曽良
どこやら雁が秋の帷子　序志

ウ

皂莢に枝もなる鴨の声　大大
御立に入ル古備乃底　亀水
心のまゝ今の任撫も惜きて　孤舟
こそあらうちは景の塩浜　子祐
此寒さわすれる雪のある曇　利牛
お綿の重さを甲子のもえる　白之
脊戸傳に未のい出くし古咄　蚊足
打角されそ　蝋のいう　李里
やおかくと平泉より翁忘月　財坡

丈幅せばき布の帷子　太洛
素白なる俤ハ流れ岸の花　八葉
俵のゝ色よ　燕　あるまじき　桃川
そろくとあるを西ませてもの見　利合
昼おもうて昔のゝ恨　蛙
酒をもて千なるへる笠置川　文梁
作兵衛おもひて孤雄を思ひ　湖松
明かるくへきりかゝるなしまた　桐葵
赤のゝ多くあるを小利ゝ住ム　嵐夜

丁寧よ入桃灯て色らるゝ　石菊
凡なる雪の柳　比ゝ　ちり
梅のゝ苦勝ゝ　嵐竹
白ゝ杵のせりあるを　此筋
あるまへしの紅奢る月の香　素龍
此脚うへ年文る秋風　千川
おいくと染ぱり多ゝ菊の影　楚舟
流をゝ流ゝ雨ゝ　角蕉
孤るなるゝ穴五ゝ梅を猶、　杏村

紙うち白紙の初のうちする年　川鴎
凡岡ケたちのうちなる花微笑　濁子
香をむすんで　紅うしろうち　滄波

奇伝備　奇普音之吟

うらむへよ　伝もなりや　訪ちを身　杉風
杖ちをや　家も力も　なかるよ　八束
見ぬ見ぬ　杖ぬ　ちの　杖ぬ　子

凡ちをよ　跡をちん　庵の松　太太
杖ちを　ちを　弥ちを　ちのきち　松
菊うち　白色　惜む　居士衣　子
山茶　ちを　塚の　杖ちを　極ちん
うちを　便　庵　絵ちを　表ちを　序志
茶の　ちを　白ひ　ちを　内ん　亀水
凡ぬ　ちを　ちを　ちを　紅の　李里
骨肉　ゆる　ゆる　ちを　ちを　楚舟
表ぬ　ちを　ちを　ちを　ちを　風弦

[illegible]を包みかねる赤い桃　桃川
[illegible]花[illegible]牡丹　[illegible]
[illegible]やはり[illegible]苔の下　[illegible]好
[illegible]を思ひ[illegible]　用陽
[illegible]の[illegible]の[illegible]　杏村
[illegible]の[illegible]　石人
[illegible]の[illegible]　[illegible]良
[illegible]の[illegible]　倉波
[illegible]　角蕉

義仲を送る悼　法眼

[illegible]　李吟
[illegible]　露沾
[illegible]　山夕
[illegible]　直方
[illegible]　[illegible]
[illegible]　濁子
[illegible]　壺蛙
[illegible]　山蓬

[illegible]しのるやすかの[illegible]　涼葉
小[illegible]やはるの[illegible]の速、　大舟
[illegible]人の[illegible]やすかの[illegible]　九板
[illegible]をみるやゆの[illegible]の初秋　此節
立[illegible]心[illegible]る塚の[illegible]　千川
[illegible]州引切[illegible]　渓泉
[illegible]　支老
拾[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　卜子
[illegible]菊乃咲[illegible]る[illegible]　拾糸

[illegible]菊八戸口より[illegible]る　真井
[illegible]形[illegible]花の[illegible]蓋を指の[illegible]　波動
伺の[illegible]　拾[illegible]　蓬山
五寸二[illegible]ゆ[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の塚[illegible]　拾[illegible]の[illegible]　[illegible]子
心[illegible]瀬[illegible]凝つく　涓[illegible]　雪莫
風の声[illegible]拾[illegible]　素[illegible]

十月サ六追善　湖春

赤ゐろ〻やあく咲たの赤柴撥
一羽ほとゝよ亥の朝鳥　素乾
殘鏡縮なる月よ辰ゐろ〻　嘉治
世ゝの音ゝ〻ゝ　龍子　淨水
紙ゆゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　桃隧
あゝ夢ゝのもを川上ゝ〻ゝ　岱水
ゆゝ〻ゝ物ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　世瓦
ゐゝ〻ゝ雨のまゝ四五町　孤屋

その形よ紙を卷ゝる百合の色　利牛
竈（クト）の火ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ（セ）　杉風
ゝ〻ゝ〻ゝ月ハいつもゝ〻死　素堂
帆ゝ〻ゝ舟ハ五ゝ〻ゝ〻ゝ　筆
山ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　利合
盆を待する急なる鮮　世城
膳所の月所隅もなく　岱水
二ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　船隧
ゐゝ〻ゝ柴老ゝ〻ゝ〻ゝ　杉風

酒ちくさをかくしてちらく　利牛
けうをうんとおもてなしの奥さまの　孤屋
さくらの盛りなる雨の中　桃隣
如あのようなるけハ嬢も若なれ　杉風
子をもの勢のつくるを　挿園　利合
毛ゝの粉借り返す力なく　珠坡
寄意　ゆくさくさのさ　杉風
孫朱の宮ちらつくる春の月　利牛
財布をぬくゝ洞ゝふる　孤屋

の餅の上ゝ時ゝ　配り餅　伏水
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　桃隣
山ゝを行ゝの者ゝ　杉風
本の寄りよ　蓑　珠坡
ゝの本の並ゝ　孤屋
小あけをゝゝ　利牛
二ゝ　伊勢上ゝ　珠坡
京白の　礼　伏水
袖　今師の好ゝ　桃隣

[illegible]優美なるものの夕暮　利合

十月廿三日

音羽亭にて興行

今[illegible]も雪のこゝろ[illegible]　仙化

かつ[illegible]色みよ森に並ぶ鴨　是吉

[illegible]月黒く衣[illegible]　介我

拭ひのこる階の[illegible]　柴軍

[illegible]の稲掛(イナカケ)[illegible]二[illegible]　湖月

昼の嵐の穴をつ[illegible]　汴牧

[illegible]向も世の[illegible]日をうけ　揚水

力もよわく[illegible]　扶風

[illegible]を迎く[illegible]の内　由之

雀の[illegible]　全峯

日[illegible]の肩ハ泥の行　治徳

[illegible]の[illegible]　李下

合羽[illegible]　汴牧

つゝみて鶴よりとる山　米　由之

肩癖のわるさなるしらべ　仙化

けり一つとるとよ牛除るなり　介我

常のえむ連元指むの花の多　治德

垣ちかく桃をくゝの数まし　湖月

深草のあまれ宗祇を讃し

いとゞや友に風月ヲ家に旅一泊ヲと

芭蕉のあるもきよ仏ゝ

旅の旅つゝみよ家祇の四つ戸　素堂

為家卿くゝや為家の長ぢくゝ　治德

姫宮のあるをくゝ宗祇の長ぢ　枳風

風ゆあるひ泊りをと猿乃面　介我

月ゆるの色江の土やこ世の紙　当吟

梅の釜いつまを晩乃面うゝを　湖月

風のあるいやゝるの泊りところ　柴雫

弥ちゝれ釜ゝるゝ和ゝうゝ　暮子

ゝちゝ根ゝいゝるゝを弥ゝ　拙仙

帰ゝ菊ゝゝ乃翁ゝ　周指

力州とうきのくにより　紅花　山蜂
果ものきのうへの芭蕉　寒玉
十徳の袖いろいろの秋　女郎色
きりぎりす　菊　ちりぬる　和水
匂の秋や　十月の世のうつり　芝庭
さんくいや　新酒　向て　一雀
詩をつて　きの蜜柑を　向て　是吉
ゆるるの　向ものむ　ちぢ　林也
雪のあとも　思ひ　名付　李下

窓ハ　ものは　ひ　景　ある　拂　ふ　亀翁
青石の陰も　あ　孔や　木槿　撥　横几
孫の野の　接　ぎ　の　霜の　秋　景桃
ゆ　来　跡　ふ　ち　羽　柱　萍水
ちの　船や　膝　か　え　ち　野坡
作の孫を　掛　く　些　ふ　時雨　少　孤屋
油火の　消　く　悔　や　ち　利牛
すると　消　く　松　も　柱　る　柳　ふ　疎雨

泣菊の名も今宵の廻り合　岱水

除川のとりつけ明や夜みぞれ　石巣

用のさ紀よまさちろくや春雨　利合

義仲寺よ参るも七仏の像ひとり

明日を待たれたる隠逸の志よ

いくつ〳〵ひとしく智の為すけるもうめ

ぞ奥よ遠星を見陳るかるかの岩の下

よりあれしよりあれを笑ふ人もも

月を下俤の蓑也七部　挑歩

十一月十二日初月忌

九山量阿弥亭　興行

泣中寒菊ひとり耐ふる　嵐雪

向上躰を言のゆるれ法　桃隣

陰笠のひるるを遅く扇也　岩翁

車ちちろ藪の畳ナリ　晋子

簑賣有よ告られ　亀翁

傘とちりちりの字　横几

名月の松の一種なひ付ケ尺艸　松翁

ウ

白粉の殘りよりる秋の氣　去來

大蛇ゝ[illegible]の引ゝ[illegible]中　正秀

[illegible]の山よりあるゝ[illegible]　曲翠

椎の木の[illegible]　筆

[illegible]　撒士

[illegible]　心主

のまゝ[illegible]　暮四

[illegible]　巨海

[illegible]蛭の衣[illegible]　荷兮

湯[illegible]　[illegible]童

[illegible]　風國

山[illegible]帶氣[illegible]　集加

[illegible]の[illegible]る心[illegible]花の[illegible]　晉子

杖[illegible]我老乃[illegible]　重勝

[illegible]和尓や[illegible]用の[illegible]　逢臣

塩辛桶[illegible]　撒士

雨の日ハ[illegible]ひ[illegible]ぐるし　桃隣
けさハちんぢとゝまる梅。目　嵐雪
のり物ハ雪の原乃トゝ[illegible]　横儿
ちゝはゝちゝの茅屋　荷兮
けもの金ちゝ[illegible]　去来
上ゝの葬を吹く風合　尺艸
[illegible]　[illegible]
[illegible]　目　岩翁
[illegible]　撤士

[illegible]と使ふ[illegible]　晉子
[illegible]腹の起り出る[illegible]　集加
櫨子[illegible]　桃隣
二ウ
[illegible]看坊[illegible]　巨風
衣[illegible]の小袖[illegible]　風雪
[illegible]歯をゆ[illegible]　晉子
[illegible]　[illegible]
長旅よ[illegible]　[illegible]
一日　[illegible]　心圭

[illegible] 枕隣
[illegible] 岩翁
[illegible] 横几
[illegible] 巨海
牛[illegible] 尺中
[illegible] 進
[illegible] 撒士
[illegible] 袴
肥肉[illegible] 集加

[illegible] 天寒[illegible] 川[illegible] 言四
[illegible] 困[illegible] 光[illegible] 岩翁
不思儀[illegible] 撒[illegible]
白粥[illegible] 思儀 岩翁
[illegible] 短尺[illegible]子
[illegible]四[illegible] 桃童
[illegible] 撒士
[illegible] 胄[illegible]
[illegible] 集加

池を籠（イケス）のみたる　山の景　尺中
芙蓉の家と　の世の　嶺　荒雪
雲の月　脚半　もとより　膳徒　桃園
とと　の　の　蜜柑　集　巨海
かしの　樽　ぶ　梅　き　芳四
　　飼猿　岩翁
　　乗（ノリ）　塩　撥士
　　念　集加
　　男の子　晋子

とりたし　る　乃　酒　風
節　の　の　と　て　柏　撥　横山
情を　叩　方　施　菜　合　尺中
　　桃園
　　著（メトギ）　芳四
　　心主
　　荒雪
　　若竹
　　垣　去来

ナ

米のたもとのうへを通る　扨　舟　集加

地蔵を建しうの傍　晉子

筆の制れしたよりを拾て　岩翁

よろこつをすゑ寄る木枯　撤士

天井をかけたる金屏風　尺中

これ刈込や里の高物　荷兮

新のはのばらくもハッ下り　横几

高ひくいなる高の脇掛　心圭

幾秋の竹つるゝ新の月　岱書

そらもの着と毋のセワしく　孩童

井ぶちる窟ハ付属の　沈橋　岩翁

ちゝあるゝ月を落　星の弁　風函

あるゝを赤飯くゝる大井　屋　集加

ウ

おゝを　百姓の弓　晉子

日の色よ心ちゝある　楼寺　撤士

ちゝ脚の盆よ袋　亟　尺中

向ふみこゝ祖を　心圭

新大橋の面吉よく　吉水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此一帖者於落掛舎書校合変

寺町二条　井つゝや重勝判

追加

於義仲寺六七月　惟然

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下元乃襞ふ気を催く索　丈艸
照月と湖老名乃陰に系る也　乙州
秋の此草にもしる　隈さし　曲翠
られたる隣子の下乃まなり何　卧高
砂弥の鞘を　双古れ久　積兼
丸合の結とむせる道を行　北枝
茶絶よそゐる乃外の花　関河
立たらぬ陰　うへのとれ世ゆるし　湖故
きの恙すを三味線にひく　惟然

いつとなくめつさん多きて門渡てう　這華
なしまなうちをはなく庭なる　朴吹
こつそりと茄る　仕出し　花の錦　曲翠
むかしあるる　芝乃ありそ　昌房

三の仙満座訓音く吟

肩うちしてふろつの法喜川出て作　广　一座大垣
此海や勝乃私切て空乃兼　荊口

冬枯はこきまぜぬ色のそれかな　緋嵐

さき牡丹梅に隣なりけるかな　文々

鳩消く閑に取りて冬ごもり　無風

兼むしは木に離れし藤かな　孫吉

おのれ土乃墓をえられや霜くしら　胡風

草鞋のはなつしや芳田の霜　萬选

冬ごもり縁ようつゝふところよ　朱也

冬あけく氷る流や人来遠　里東

弦入く加減の遠山霧さうあれ　野径

雪霙に門となるところのよあところ　蘿葉

算の筆作枯まく甲斐なき朋かな　支遊

請るまた借見へよ墓乃霜　竹官

本らしき便りしちさきやむけふ　裾道

抑石となつて注りし龜の音　危　数浩

十方なき間や枯の柳かけ　柯山

月代をそらしてはきし塚のあ　及肩

ことわざをや霜や鐘をよ頭陀袋　鳩枝

雲一月十六日芭蕉翁三十五日

於美濃仲寺真行

墓をとく蓮乃雫を持つ水うれ　桃青

あるかいわくるる　夕乃栄の声　智月

跋　えよ二篇よ集る　弱れ　結つ集る　正秀

世白月ゆ暗く

皇都　諸仙堂　藏板

書林　井筒屋庄兵衛
橘屋治兵衛　板行
浦井徳右衛門

16510
3.14